



図1 3D モデルでみた若山町中地区の線状地表変状 (赤線)

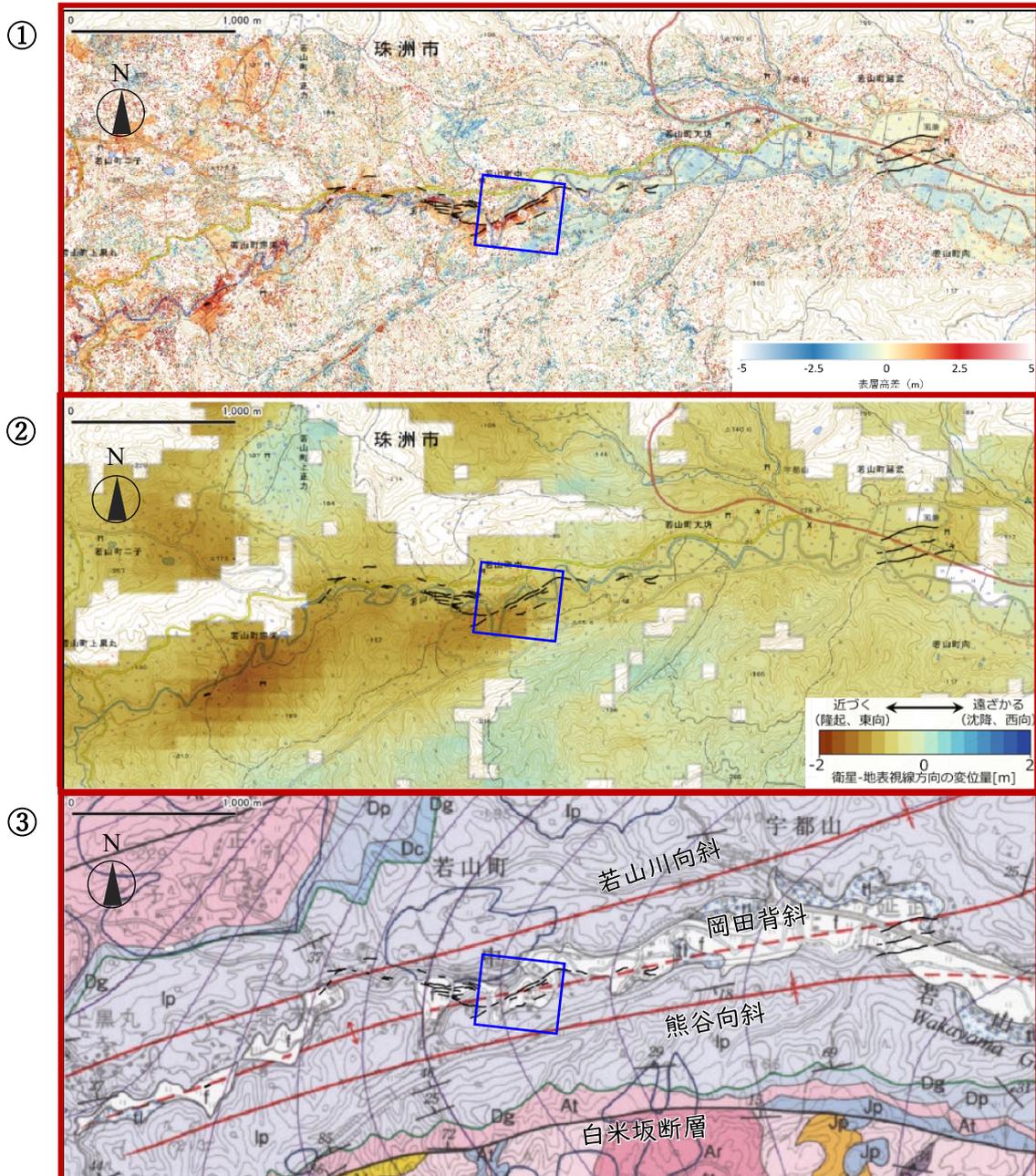


図2 隆起地帯と線状の地表変状 (黒線) の位置と、SAR 観測結果及び地質図との比較
 ①地震前後の表層高差と線状の地表変状、②SAR のピクセルオフセット解析結果 (2022年9月26日-2024年1月1日 (東側からの観測)、③5万分の1地質図幅「珠洲岬、能登飯田及び宝立山」(2002年発行)(凡例を加筆)。図中の四角枠は図1の範囲を表す。



図3 線状の地表変状の分布（赤線）



図4 地震前後の表層高差及び隆起地帯（点線範囲）の分布

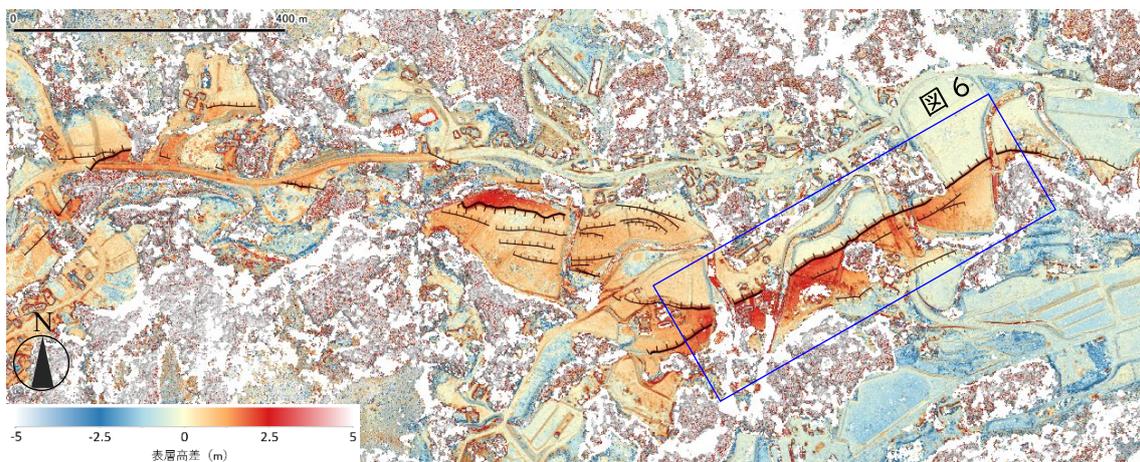


図5 若山町中地区における隆起地帯と線状の地表変状（黒ケバ線：変位の大きいものを太線、小さいものを細線）

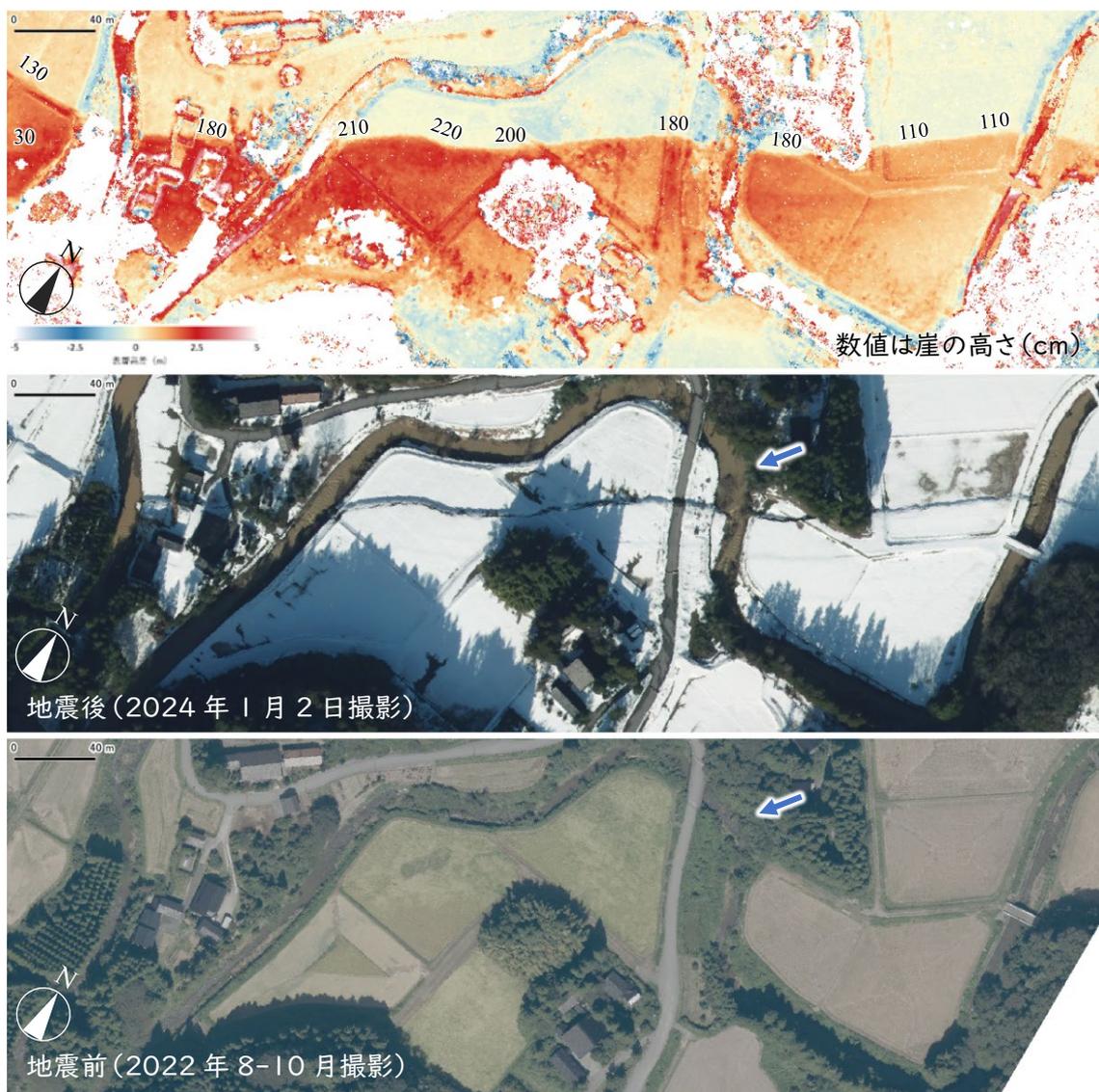
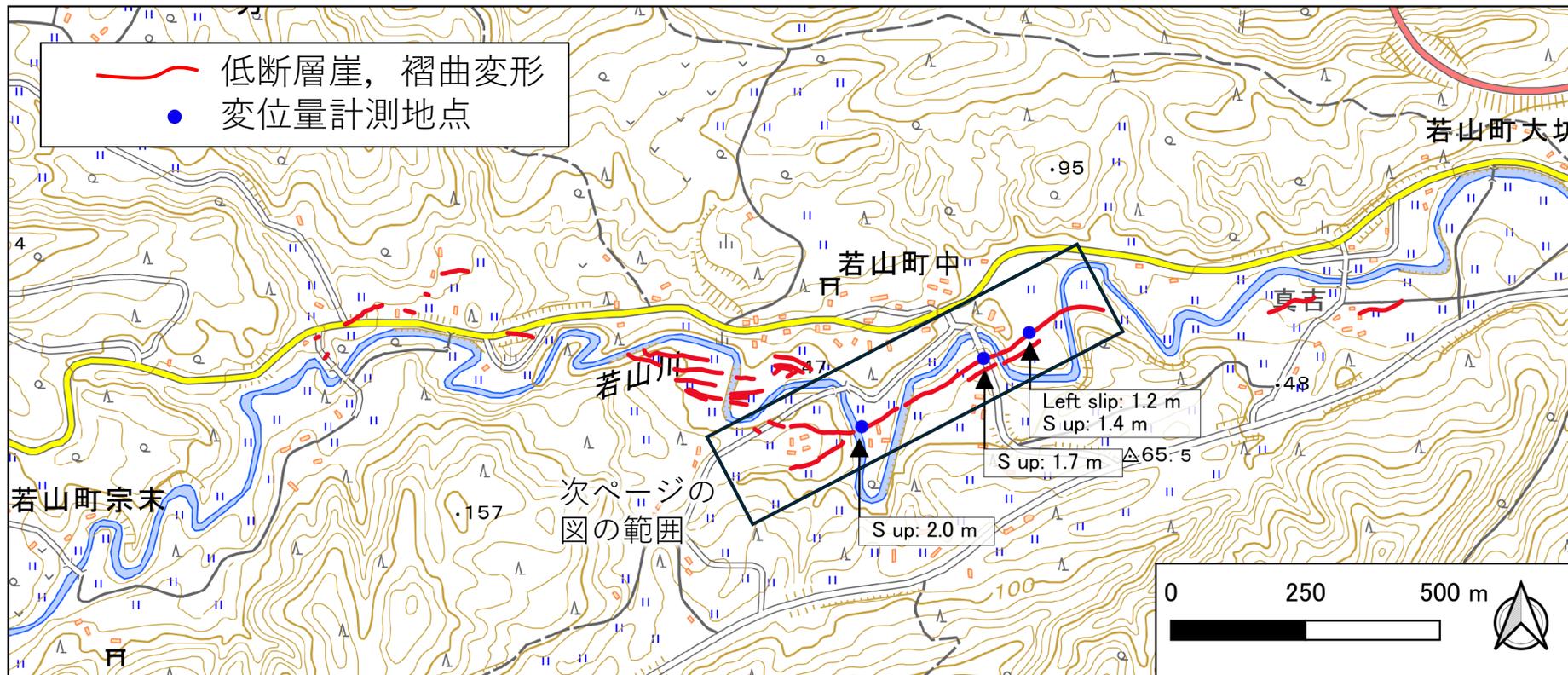


図6 若山町中地区における線状の地表変状と、河川水の滞留による川幅の拡大（青矢印箇所）（上図：地震前後の表層高差と崖の高さ（cm）、中図：地震後の空中写真（国土地理院撮影：2024年1月2日）、下図：地震前の空中写真（石川県撮影：2022年8-10月）。

能登半島北東部珠洲市若山川沿いに認められた地表変状について

東京大学地震研究所, 富山大学



- 国土地理院の公開した正射画像（珠洲 1/2撮影）の判読により確認
- 2024年1月27日に現地調査

◆東西約2 kmの範囲において、南上がりの低崖や褶曲変形が確認された。上下変位量1.4 m~2 m、一部では約1.2 mの左横ずれが計測された。

地表変状の様子 (2024/01/27撮影)

